

宮城県事業実施地域

再生課題：干潟の保全・再生



がもう ひ がた
蒲生干潟

**再生
目標**

生態系の上位である渡り鳥にとって良好な湿地環境の保全と空間の適正利用による環境保全活動・環境教育を行う場および多様な主体が交流し、情報を共有する場の創出



DATA
エリア：国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別保護地区
所在地：宮城県仙台市
着手：H14

蒲生干潟自然再生協議会

概要：シギ・チドリ類などの渡り鳥の飛来地であり、また底生生物の宝庫である貴重な干潟環境の保全・再生を検討。

設立日：H17.6.19

構成員数：22

全体構想作成日：H18.9.16

実施計画作成日：H20.3.29

(震災後、協議会は開催されていない。)
(H 27.1 現在)

蒲生干潟は、仙台港の建設や河川改修工事によって人為的に形成されたもので、淡水と海水が混じる汽水域となっています。また、国際的にも貴重な渡り鳥の中継地、繁殖地、越冬地であり、特にコクガン越冬地の南限として重要な役割を果たしています。

しかし、平成23年3月の東日本大震災による津波の影響を受け、蒲生干潟の湿地環境は激変しました。このため渡り鳥を頂点とする生態系にとって良好な自然環境への修復等に向け、どのような取組ができるのか、自然遷移の経過を見ながら、検討を進めることとしています。



震災後、蒲生干潟に飛来しているコクガンの群れ



平成21年3月



平成23年3月12日 国土地理院提供



平成25年8月26日

自然再生の手法

- ▶ 多様な生物を育む干潟の保全・復元→②③
- ▶ 湿地を維持する水環境の再生→②③
- ▶ 砂浜環境の保全・回復→①②
- ▶ 環境保全活動・環境教育の推進および各主体が交流する場の創出→①

震災前は、干潟面積の保全・復元や砂の干潟への流入量を制御するための対策を講ずるとともに、干潟および砂浜の適正な利用に資するルールづくり等を検討していました。

①ルール作り

サーフィン等のマリンスポーツや釣り等の生物採取など、干潟の利用目的に応じた利用計画および利用ガイドラインの策定を検討しています。



②防砂対策、滞筋等の浚渫

荒天時の越波により、底質が砂質化し、干潟が浅化しており、効率的な水環境の確保が困難となっています。このことから、干潟面積の保全・復元、水環境再生のための防砂対策や滞筋の浚渫等を検討しています。



③導流堤の改修

河川との境界に立地する導流堤の老朽化により、水門での水理的制御が困難となっていることから、干潟の水循環の調整を可能とするよう導流堤の改修を検討しています。



関連ホームページ

蒲生干潟自然再生事業：<http://www.pref.miyagi.jp/sizenhogo/sizen/saisei-hp/top.htm>